

オンプレミスからの移行でTCOを大幅削減！

Autonomous Data Warehouse Cloud TCO試算ツール

使い方ガイド

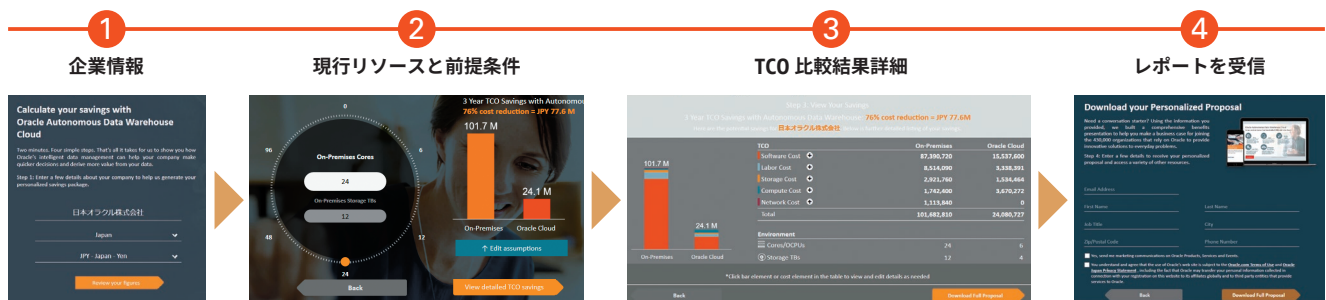
Autonomous Data Warehouse Cloud TCO試算ツールとは

このウェブツールは、オンプレミスのシステムをOracle Autonomous Data Warehouse Cloudへ移行した場合に削減できると考えられる3年分の総所有コスト(TCO)、および享受できるベネフィットを試算するものです。

自律型のデータ管理を実現するOracle Autonomous Data Warehouse Cloudは、その高いスケーラビリティとセキュリティ、シンプルな運用により、企業がデータからより多くの価値を引き出し、より迅速な意思決定を下すことを可能にします。

本ツールでは、わずか4ステップの操作で自社の要件に合わせた試算が行えます。Oracle Autonomous Data Warehouse Cloudでどれだけ節約できるのか、ぜひお試しください。

わずか4ステップ! 詳細な試算レポートを手に入れよう



次ページより試算ツールの使い方をステップ・バイ・ステップで説明します。右のボタンをクリックして試算ツールを起動し、実際に使いながら試算してみましょう。

Click! ▶ TCO試算ツールを起動

<https://www.oracle.com/goto/autonomousdw-tco>

Step1 | 企業情報の入力

TCO試算ツールのページが表示されます

1 企業名を入力する

2 国名を選択(日本の企業なら「Japan」を選択する)

3 通貨単位を選択(日本円の場合は「JPY - Japan - Yen」を選択)

4 クリックして次へ進む

Step2 | 現行リソースと前提条件の入力

現行システムの情報入力ページが表示されます

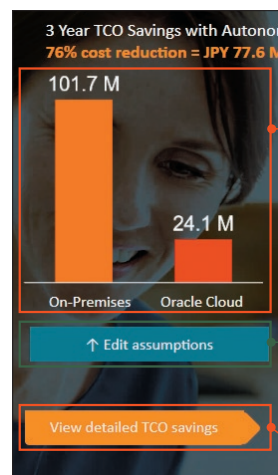
リソースの指定

1 「On-Premises Cores」の入力欄をクリックし、オンプレミスで稼働中のシステムのCPUコア数を指定する

2 「On-Premises Storage TBs」の入力欄をクリックし、オンプレミスで稼働中のシステムのストレージ容量をテラバイト(TB)単位で指定する

数値の指定は、キーボードから直接入力する代わりに、オレンジ色のボールを目盛りの上をドラッグして行うこともできます

3か年のTCO削減効果



3 Autonomous Data Warehouse Cloudへ移行した場合に削減可能な3か年のTCO削減効果(金額およびコスト削減率)が表示される。コア数、ストレージ容量を変化させると、棒グラフも動的に変化する

TCO削減効果は、既定の前提条件をもとに試算されています。既定値を変更するには「Edit assumptions」をクリックします(詳しくはP5の付録を参照)

4 クリックして次へ進む

Step3 | TCO比較結果の詳細

3年間のTCO比較結果の詳細ページが表示されます



TCOの試算結果の内訳が表示されます

4 クリックして次へ進む

Software Cost : ソフトウェア費用(ライセンスおよびサポート)

Labor Cost : 人件費

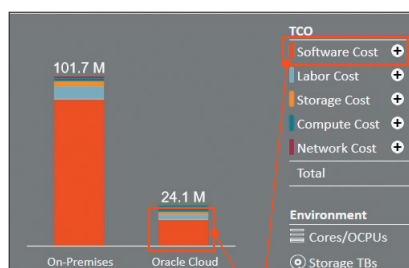
Storage Cost : ストレージ装置の取得とサポートのコスト

Compute Cost : コンピュート(サーバー)の取得とサポートのコスト

Network Cost : ネットワーク装置の取得とサポートのコスト

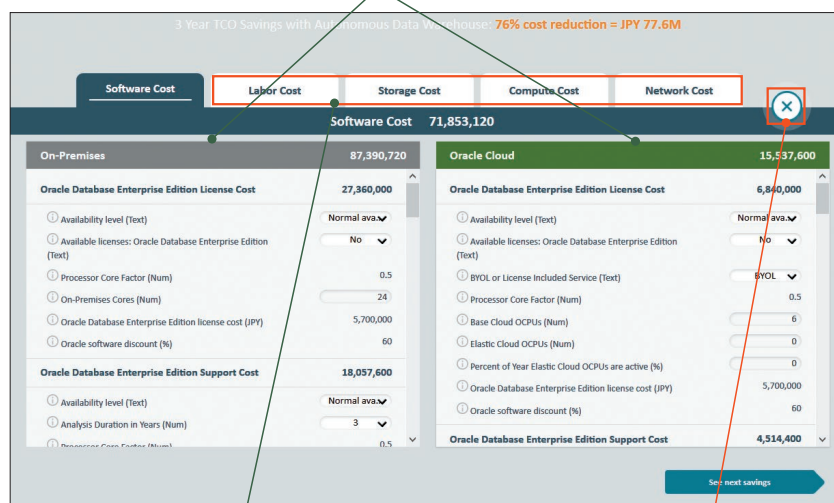
項目ごとにドリルダウンして詳細な内訳を確認する

TCOの詳細ページでは、項目ごとの内訳をドリルダウンして確認することができます。



1 内訳を見たい項目の項目名、もしくは棒グラフのバーをクリック

手順①で指定した項目の詳細な内訳がオンプレミスとOracle Cloudごとに表示されます



タブのクリックで他の項目の内訳を表示できます

2 クリックして元の画面に戻る

Step4 | レポートのダウンロード

個人情報を入力すると、約30ページの詳細なTCO試算レポート(PDF)をダウンロードいただけます。入力項目はすべて必須です。レポートは、入力いただいたメールアドレスへも送信されます。

Download your Personalized Proposal

Need a conversation starter? Using the information you provided, we built a comprehensive benefits presentation to help you make a business case for joining the 430,000 organizations that rely on Oracle to provide innovative solutions to everyday problems.

Step 4: Enter a few details to receive your personalized proposal and access a variety of other resources.

☐ Yes, send me marketing communications on Oracle Products, Services and Events.

☐ You understand and agree that the use of Oracle's web site is subject to the [Oracle.com Terms of Use](#) and [Oracle Japan Privacy Statement](#), including the fact that Oracle may transfer your personal information collected in connection with your registration on this website to its affiliates globally and to third party entities that provide services to Oracle.

Back

Download Full Proposal

1 個人情報を入力する
(日本語も入力可能)

E-mail Address: メールアドレス。業務で使いのメールアドレスを入力してください

First Name: 名

Last Name: 姓

Job Title: 役職名

City: 住所(国名を除く)

Zip/Postal Code: 郵便番号

Phone Number: 電話番号。業務で使いの電話番号を入力してください

2 オラクル製品、サービス、イベントの
情報を受け取る場合はチェックする

3 オラクルの利用規約および個人情報
保護方針に同意してレポートをダウン
ロードする場合はチェックする(必須)

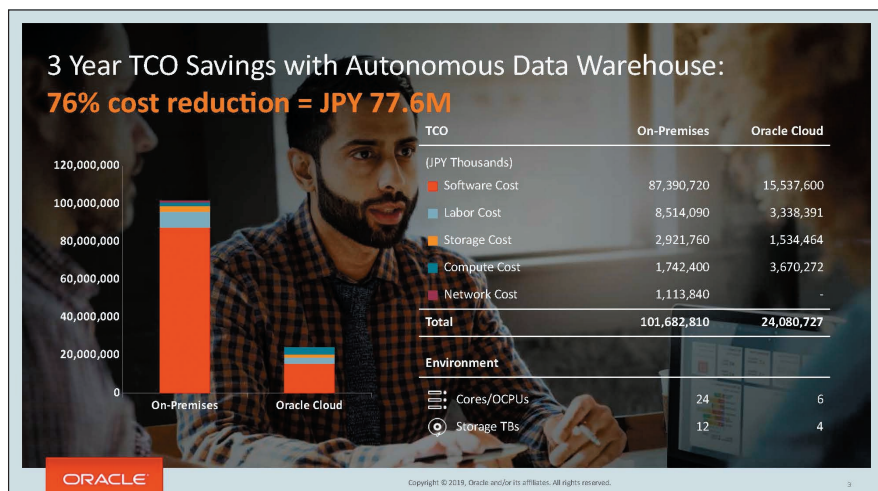
4 クリックしてレポートをダウンロード

ダウンロードしたレポートを開く



約30ページにわたる詳細なレポートがダウンロードされます

※レポートのPDFは、入力したメールアドレスにも送信されます。「Oracle Autonomous Data Warehouse TCO Calculator Report」という件名のメールをご確認ください。



試算結果の概要ページ。続くページには試算に用いた前提条件の内容と、項目ごとの詳細な内訳が記載されています。社内での検討用資料としてご利用ください。

付録 | 前提条件の項目と既定値

TCO試算ツールでは、あらかじめ設定された前提条件をもとにコスト計算を行っています。5年間のTCOを比較したい、管理者コストを正確に反映したいなど、前提条件の既定値を自社の要件に合わせて変更することで、より精緻な試算を行うことが可能です。前提条件の既定値を変更するには、Step2のページに表示されている「Edit assumptions」をクリックします。

「X」をクリックすると元の画面に戻ります

- 1 Step2のページで「Edit assumptions」をクリック
- 2 前提条件の設定項目が表示される。必要な項目の値を修正すると、即座に試算結果に反映される
- 3 「View detailed TCO savings」をクリックするとStep3に進む

Additional Valuesセクション

● Availability level (Text)

可用性レベルを「Normal availability」（通常可用性）と「99.995% availability」（99.995%可用性）から選択。「99.995% availability」の選択時は、通常可用性選択時の2倍のOCPUとストレージ容量が割り当てられます。

● Base Cloud OCPUs (Num)

常時アクティブなOCPUの数。ADWCの高いCPU使用率にもとづくコンピューティングパフォーマンスの高さにより、同じワークロードに必要なOCPU数は、オンプレミスのx86サーバーコア数よりも少なくてみます。負荷変動が大きいワークロードの場合は、「Elastic Cloud」セクションで弾性OCPUを設定し調整してください。

● Cloud Storage TBs (Num)

クラウドストレージの容量。高い圧縮率を誇るHCC（ハイブリッド・カラム圧縮）機能により、ADWCのストレージは標準的なオンプレミスストレージよりも少ない容量しか必要としません。

● On-premises Server Average Utilization (%)

オンプレミスのサーバーの平均CPU使用率。オンプレミスサーバーは最大キャパシティに合わせてサイジングされるため、仮想化されている場合でも、通常は平均使用率が低くなっています。50%は、仮想化オンプレミスサーバーの一般的な使用率です。

● ADWC Compute Average Utilization (%)

ADWCの平均CPU使用率。

● ADWC Compute Performance Advantage (x times faster) (Num)

オンプレミスサーバーのコアに対するADWCのOCPUの性能比。

● ADWC Storage Compression Advantage (x times more compression) (Num)

オンプレミスのストレージに対するADWCストレージのデータ圧縮性能比。

● Oracle software discount (%)

オンプレミスのOracleソフトウェアに対する値引き率。

● Oracle software support (%)

オンプレミスのOracleソフトウェアに対する年間サポート費の割合。

● Universal credits discount (%)

Universal Credit（ユニバーサル・クレジット）によるクラウドの値引き率。

● Available licenses: Oracle Database Enterprise Edition (Text)

クラウド移行可能なOracle Database Enterprise Editionのライセンス。オンプレミスのライセンスを持ち込みたい場合は「Yes」を選択します。

● Available licenses: Oracle Multitenant (Text)

クラウド移行可能なOracle Multitenantのライセンス。オンプレミスのライセンスを持ち込みたい場合は「Yes」を選択します。

● Available licenses: Oracle Real Application Clusters (Text)

クラウド移行可能なOracle Real Application Clustersのライセンス。オンプレミスのライセンスを持ち込みたい場合は「Yes」を選択します。RACは16 OCPU以上必要です。

● Available licenses: Active Data Guard (Text)

クラウド移行可能なOracle Active Data Guardのライセンス。オンプレミスのライセンスを持ち込みたい場合は「Yes」を選択します。

● BYOL or License Included Service (Text)

OCPU価格にBYOL（ライセンス持ち込み）価格とライセンス込みサービス価格のどちらを適用するか。持ち込み可能なライセンスがない場合は「License included service」を選択します。

● Analysis Duration in Years (Num)

このツールでTCOを試算したい年数。年数は1～5の範囲で指定できます。

Elastic Cloudセクション

● Elastic Cloud OCPUs (Num)

短期的な負荷上昇時に利用できるOCPU (弾性OCPU) の数。

● Percent of Year Elastic Cloud OCPUs are active (%)

弾性OCPUの年間利用率。例えば開発 / テスト環境の場合は33%を指定します。

On-premises Server costsセクション

● Server Acquisition cost per core (JPY)

オンプレミスサーバーの1コアあたりの取得コスト (既定値: 46,320) ^{※1}。

● Cores per server (Num)

オンプレミスサーバーのコア数。

● Annual Server Service cost per core (JPY)

オンプレミスサーバーの1コアあたりの年間サービスコスト。プレミアサービスまたは24x7同等のサービスを想定 (既定値: 5,400) ^{※1}。

On-premises Storage costsセクション

● Storage Acquisition cost per TB (JPY)

オンプレミスストレージのTBあたりの取得コスト (既定値: 174,360) ^{※1}。

● Annual Storage Service cost per TB (JPY)

オンプレミスストレージのTBあたりの年間サービスコスト (既定値: 20,160) ^{※1}。

On-premises Network costsセクション

● Network acquisition cost per core (JPY)

オンプレミスの1コアあたりのネットワーク取得コスト。

● Network annual facilities cost per core (JPY)

オンプレミスの1コアあたりのネットワーク年間設備コスト。

● Network annual service cost per core (JPY)

オンプレミスの1コアあたりのネットワーク年間サービスコスト (既定値: 47,280)。

● Ports per server (Num)

サーバー当たりのネットワーク・ポート数。

On-premises Facilities costsセクション

● Annual Server facilities cost per core (JPY)

オンプレミスサーバーの1コアあたりの年間電力、冷却、および設置面積のコスト (既定値: 3,360) ^{※2}。

● Annual Storage facilities cost per TB (JPY)

オンプレミスストレージのTBあたりの年間電力、冷却、および床面積のコスト (既定値: 2,880) ^{※2}。

On-premises Software costsセクション

● Annual OS support cost per core (JPY)

1コアあたりのOSの年間サポートコスト。

● Annual Virtualization support cost per core (JPY)

1コアあたりの仮想化プラットフォームの年間サポートコスト。

● Virtualization cost per core (JPY)

1コアあたりの仮想化プラットフォームのライセンスコスト。

Oracle BYOL Software costsセクション

● Oracle Database Enterprise Edition license cost (JPY)

Oracle Database Enterprise Editionのライセンスコスト。

● Active Data Guard license Cost (JPY)

Oracle Active Data Guardのライセンスコスト。

● Multitenant license cost (JPY)

Oracle Multitenantオプションのライセンスコスト。

● Processor Core Factor (Num)

CPUコア係数。0.5はx86サーバーの場合の値です。詳しくは下記を参照ください。

● RAC license cost (JPY)

Oracle Real Application Clustersのライセンスコスト。

<http://www.oracle.com/us/corporate/contracts/processor-core-factor-table-070634.pdf>

※1 規定値は公開価格リストおよびOracleの分析により想定。

※2 規定値は、製品仕様書からクリアランスを含む床面積およびPUE (電力使用効率) を1.8と仮定した消費電力より想定。 (https://en.wikipedia.org/wiki/Power_usage_effectiveness)

Oracle Cloud Subscription costsセクション

- **BYOL Monthly Subscription per OCPU (JPY)**
BYOL利用時の1 OCPUあたりのADWC月額サブスクリプションコスト。
- **Storage Cloud Monthly Subscription per TB (JPY)**
1TBあたりのストレージ月額サブスクリプションコスト。
- **License Included Service: EP Monthly Subscription per OCPU (JPY)**
ライセンス込みサービス利用時の1 OCPUあたりのADWC (Extreme Performanceレベル) 月額サブスクリプションコスト。

Uptimeセクション

- **On-Premises Uptime (%)**
オンプレミス環境の可用性。
- **Uptime Improvement percent (%)**
ADWC移行による可用性の改善率。

Productivity Parametersセクション

- **Number of users in scope (FTE)**
当該システムの利用者数。
- **System Administrator Productivity Improvement percent (%)**
Oracle Cloudへの移行で期待できるシステム管理者の生産性向上率。
- **Percent lost user productivity when system is unavailable (%)**
システムが利用できないときに失われる生産性の割合。100%は生産性がなくなることを意味します。
- **Database Administrator Productivity Improvement percent (%)**
Oracle Cloudへの移行で期待できるデータベース管理者 (DBA) の生産性向上率。
- **Hours Worked in a Year (Hours)**
従業員の年間労働時間。自社に合わせて調整してください。

IT Staffingセクション

- **Number of FTE Database Administrators in scope (Num)**
当該システムを管理するデータベース管理者 (DBA) の数。1人のDBAが20のシステムを担当している場合、0.05 (1/20) を指定します。
- **Number of FTE System Administrators in scope (Num)**
当該システムのサーバー、ストレージ、ネットワークを管理するシステム管理者の数。1人のシステム管理者が10のシステムを担当している場合、0.1 (1/10) を指定します。

Compensation Parametersセクション

- **Fully Burdened Annual Salary: Full Time Employee (JPY)**
フルタイム勤務の一般社員の平均年収。30%の予定配賦率を勘案した金額を指定します。
- **Fully Burdened Annual Salary: Database Administrator (JPY)**
フルタイム勤務のデータベース管理者の平均年収。30%の予定配賦率を勘案した金額を指定します。
- **Fully Burdened Annual Salary: System Administrator (JPY)**
フルタイム勤務のシステム管理者の平均年収。30%の予定配賦率を勘案した金額を指定します。

※本ガイドは、本TCO試算ツールの使い方を簡単にガイドしたものです。すべての項目について網羅的に解説したものではありません。
※また、本試算ツールで算出される金額は参考であり、各契約等の際にこれを保証するものではありません。
※正確なサービスの価格については、見積りをご依頼ください。

もっと詳しく! ビデオ、お問合せ、無料お試し



<https://www.oracle.com/jp/cloud/free/>

自律型データ・ウェアハウスを
無料で使えるトライアル実施中!



<https://www.oracle.com/goto/autonomous-jp>

Oracle Autonomous Databaseの
詳しい情報はこちらから

新しい常時無料サービス+30日間の無料トライアルで Oracle Cloudをお得に始める!



<https://www.oracle.com/jp/cloud/free/>

Oracle Cloudでは、常時無料でご利用できるサービスと、各種クラウドサービスを30日間・300ドル分無料でお試しいただけるトライアル・サービスをご提供しております。それぞれ対象となるサービスの詳細、および無料トライアルのお申込み方法の詳細は、上のURL、または下のQRコードにアクセスしてください。



●主な常時無料サービス

- ・自律型データベース (1 OCPU、20GBストレージ) ×2
- ・仮想マシン (1/8 OCPU、1GBメモリ) ×2
- ・ブロック・ストレージ ×2 (合計100GBまで)
- ・オブジェクト・ストレージ (10GB)
- ・アーカイブ・ストレージ (10GB)
- ・ロード・バランサ (10Mbps)

※ 対象サービスと詳細の最新情報は、ウェブページをご確認ください。

●主な無料トライアル・サービス

- ・インフラストラクチャ
(コンピュート、ストレージ、コンテナ、FastConnect、他)
- ・データベース
(自律型データベース、NoSQL、Oracle、データベース・バックアップ)
- ・アプリケーション開発
(Java、コンテナ、関数、モバイル・ハブ、他)
- ・アナリティクス (Oracle Analytics Cloud)

Oracle Cloudのユースケース、導入事例、資料、価格などの詳細情報は、下記URLにアクセスしてください。

<https://www.oracle.com/jp/cloud/infrastructure/overview/>

*OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Copyright© 2020, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター
oracle.com/jp

お問い合わせ窓口



TEL 0120-155-096
URL oracle.com/jp/contact-us